

平成29年度 藤島地域主要事業

(総務企画課)

1 藤島歴史公園の観光拠点化・魅力アップ促進事業

[予算額：2,850千円]

「藤島歴史公園Hisu^{ヒスカ}花」を藤島地域のシンボルであるふじというテーマ性のある公園として整備するとともに、将来的な観光資源としての活用を目指し賑わい創出を図る。

ふじが見頃となる頃を目途に観光資源となるふじ棚に仕立てるため、これまで継続的に育成・管理を行ってきたふじ棚管理ボランティア団体の活動を引き続き支援する。

また、年間を通じた交流人口促進を図るため、昨年より開始したイルミネーションについては拡充設置するとともに、地域と連携した花美化活動なども実施する。

2 庄内農業高等学校地域連携事業 [予算額：800千円]

地域の農業関連資源や各種団体、高等教育機関と連携し、同校の更なる発展と魅力ある学校づくりに資する、地域の特性を活かした農業振興と地域づくり、地域活性化と同校卒業後の地元定着の促進を図る取り組みを推進する。

地域で継承されてきた藤島大根、外内島キュウリ等の在来作物の栽培・利用方法や食文化継承の学びを支援するとともに、県立加茂水産高校と連携した庄農うどんと加茂水さんま節による麺類開発等、地域振興に資する取組みを支援する。

さらに、東北公益文科大学の出前講座等による地域農業の現状や課題研究、将来に向けた就農意欲の向上に繋がる研修等を通じて、地域の将来を担う人材育成を支援する。

3 住民自治組織総合交付金[予算額：13,661千円(防犯灯除く)]

市から自治組織へ交付している複数の補助金等をまとめて交付することで、自治組織にとって自由度が高く、創意工夫を生かせる総合的な交付金として交付する。

4 防犯灯事業補助金

- ・自治組織等が負担する防犯灯の新設及び更新に対する補助金。

[予算額：650千円(全市)]

- ・自治組織等が負担する防犯灯の維持管理に必要な経費に対する補助金。

(総合交付金として交付) [予算額：814千円(藤島地域)]

5 鶴岡市藤島地域総合防災訓練（9月3日）

鶴岡市地域防災計画に基づき、大規模な災害発生を想定した総合的な訓練を鶴岡市消防団藤島方面隊の協力のもと渡前地区を主会場に実施する。

（市民福祉課）

6 高齢者長寿祝賀事業補助 【予算額 4,448千円】

長年の間、地域社会の向上発展に寄与された75歳以上の高齢者を心から敬愛し、その功績を讃えて感謝の意を表する会を開催する。また、5年間(32年度まで)の経過措置をもって、鶴岡市の補助金単価(平成29年度一人当たり補助金額2,000円、最終補助金額1,100円)の統一を図るため、町内会や実行委員会と協力し敬老会事業を実施する。

7 市立保育園管理運営事業

本市の公立保育園については、指定管理による民営化を進めることを基本とし、平成30年度より藤島くりくり保育園は指定管理者である「社会福祉法人ふじの里」による運営となる。子ども達にストレスを与えず丁寧な引継ぎを行い、スムーズに民営化に移行できるよう取り組んでいく。

8 藤島斎場管理運営 【予算額 6,949千円】

平成28年度は鶴岡斎場の修繕工事の影響で、例年より多い224体の利用実績があり、藤島地域のみならず鶴岡斎場と共に鶴岡市の斎場業務を担っている。築30年を超える施設・設備ではあるが適切な維持修繕を行いながら管理していく。

9 福祉相談のワンストップ窓口の推進

福祉の相談機能の集約による利用者の利便性の向上と、庁舎の利活用を図るため、平成29年4月より「藤島福祉センター」が藤島庁舎へ移転し、福祉相談のワンストップサービスに向けて窓口を開設した。「地域包括支援センターふじしま」も加わった、より利便性の高いワンストップサービスが行われるように推進していく。

(産業建設課)

10 人と環境にやさしい農業推進事業 [予算額：853千円]

鶴岡市が独自に認証する鶴岡Ⅰ型・Ⅱ型特別栽培米を消費していただいている首都圏消費者や給食関係者等との交流を継続し、人と環境にやさしい農業、安全・安心な農作物への理解者を増やすことにより販路拡大を図る。

平成19年度から調査交流を行っている東洋大学社会学部と連携し、人と環境にやさしい農業をサポートする学生のネットワークを構築するとともに、情報の発信を行う。

機能性と栄養価が注目されている葉茎食用サツマイモ「すいおう」の生産、利用の振興を図る。

藤島地域内の小学生を対象に、田んぼの生き物調査と栽培農家による出前授業を継続実施する。

11 まつり振興事業(伝統芸能祭開催事業含む) [予算額：3,866千円]

地域の主要な観光事業である「ふじの花まつり」「夏まつり」「秋まつり」を開催する。

5月13日、14日開催の「ふじの花まつり」は地域外からの来客割合が多いイベントとなっており、26回目となる今回はより地域の魅力を発信するため5月に活動を開始した観光ガイドより協力いただき、藤の魅力を紹介していただいた。また、数年後に藤島歴史公園でのまつりを行っていく計画案を検討していく。

8月第一日曜日開催の「ふじしま夏まつり」は、鶴岡伝統芸能祭、ふじしま焼肉フェスティバルをメインとするまつりで、特に鶴岡伝統芸能祭は市内全域から伝統芸能団体が集まる貴重な場となっている。今年度は鶴岡伝統芸能祭の様子を、各地に残る伝統芸能の紹介映像として活用できるように記録保存する。

10月最終日曜日開催の「ふじしま秋まつり」は、「つや姫の里の収穫祭」をテーマとして実施されており、機能性野菜「すいおう」をはじめとして、採れたての地域の農産物を販売し、新しいメニューの試食も行う事で「食と農による地域づくり」を広くアピールしていく。

12 道路関係事業及び市営住宅

○道路公共事業・道路新設改良事業

- ・川向向楯跡線 都市計画道路藤島駅笹花線工事に付随するものとして、交差する市道川向向楯跡線に側溝を新設した。

L=30m 落蓋式 30×30 27.5m

30×40 2.5m

2/24~6/30 C= 1,254千円 完成済み

- ・藤島東線 傷みが激しく、水たまりが大きくできていたため、平成 28 年度に 190m を表層改良した。その北側端部について、継続して切削オーバーレイを施工する。
L=110m 幅員 8.0m 施工面積 880 m²
外側線 220m 中心線 55m
7/19～9/29 C= 4,200 千円程 7/12 入札し落札

○道路維持事業

- ・区画線設置 市道における外側線、中心線等について藤島地域内の 12 箇所を施工している。
述べ施工延長 L=1,860m
6/8～7/28 C=600 千円程
- ・植樹柵改修 藤島東線の歩道について、街路樹の根により植樹柵の柵等が持ち上げられて歩行の支障となることから改修が必要である。今年度 2 箇所を実施する予定である。

○市営住宅維持管理事業

- ・ふじなみ住宅外壁改修工事
平成 28 年度に市営ふじなみ住宅の経年により劣化した外壁を 4 棟改修している。平成 29 年度も 4 棟を改修していく予定である。

◎県事業等の状況について

- ・都市計画道路藤島駅笹花線道路改良工事
平成 28 年度に引き続き用地補償について、駅までの 11 件を施行し完了する予定であるとのこと。平成 30 年度以降については、新町橋歩道橋の架け替えから新町橋西側の道路拡幅工事を進めていく予定である。
- ・京田川改修事業（三和地内）
平成 28 年度河川整備計画検討業務を実施したが、平成 25 年・28 年の大雨洪水のデータが影響し、流域委員会等手続きが整わなかった。平成 29 年度現在、河川整備計画に関して国土交通省東北地方整備局と打合せを行っており、事業着手に向けて調整中とのこと。
- ・京田川地区 農村地域防災減災事業（長沼地区）
平成 26 年度に採択後、事業が難航したが、平成 29 年度に耐震設計を行う予定で、平成 30 年度に用地買収。平成 31 年度に着工していく見込である。

平成29年度 農業委員会の主な取り組み

【農業委員の改選】

平成28年4月施行の農業委員会法の改正により、農業委員の選出方法がこれまでの公選（選挙）から公募による市長の任命に改められた。また、農業委員の定数についても、国の基準が半分程度になり、新たに農地利用最適化推進委員が設けられることになった。

鶴岡市でも、平成29年11月の次期改選から改正農業委員会法に基づき委員を任命することとしており、現在諸準備を進めているところである。

（委員定数）※平成29年3月条例改正

| 区分 | 改正後 | 改正前 |
|-------------|------------|-----|
| 農業委員 | <u>20人</u> | 45人 |
| 農地利用最適化推進委員 | <u>31人</u> | — |

（主なスケジュール）

- 4月 ・募集のPR（市広報、農業委員会広報、市HP、掲示板）
- 5月 ・公募期間（5/15～6/19）
 - ・公募中間公表（5/31）
- 6月 ・公募結果公表（6/21）
- 7月 ・農業委員評価委員会開催（7/26）※候補者の決定
- 11月 ・候補者について議会の同意 ※臨時議会（上旬）
 - ・市長による農業委員の任命（11/26）
 - ・会長による農地利用最適化推進委員の委嘱（11/26）

【優良農地の確保（農地利用の最適化の推進）】（1,500+477千円）

限られた農地を有効に活用するため、農地パトロール等により、農地の無断転用及び耕作放棄地の発生を防止するとともに、遊休農地解消を目指し、借入希望者のあっせん、農地復元の補助事業への誘導などに積極的に取り組む。

また、11月の改選で新たに農地利用最適化推進委員が設置されることから、改選まで間、農業委員、地域にある農用地利用等調整委員会の役割を整理し、農地利用の最適化がより有効に図られるよう検討を進める。

【農地中間管理機構を活用した農地集積・集約化】（59,666+1,349千円）

農地集積については、農業者の高齢化等により毎年一定程度のリタイアがあり、集積率は自然現象的に向上している。しかし、農地の集約に関しては進まない現状があり、今年度、モデル地区を設定し「耕作地の交換」に取り組んでいくこととしており、現在、市農政担当と事業設計等諸準備を進めている。また、中山間等担い手が不足している地域に関しては、関係機関と連携し法人化等の積極的な働きかけにより担い手確保を図っていく。